

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ立ててく3

国立市立国立第七小学校

平成27年6月3日 NO.26 (226)



花ちゃん 「キャー！カマキリが何か^{なに}食^たべてる！」

オー君 「^{おどろ}驚くことはないよ。花ちゃん。食^たべたり食^たべられたりするのが、自然^{しぜん}の姿^{すがた}なんだよ。」

モンタ博士「そのとおりだね。この写真^{しゃしん}は、カマキリがコオロギを食^たべているところさ。」

オー君 「でも、モンタ博士。この写真^{しゃしん}おかしいですね。今^{いま}ごろこんな大きなカマキリは^{おも}いないと思いますが。」

モンタ博士「そのとおりだね。この写真^{しゃしん}は秋^{あき}にとったものさ。」

オー君 「それにしても迫^{はくりよく}力^{りき}ある写真^{しゃしん}ですね。」

モンタ博士「そうだろう。カマキリにコオロギを^み見せたら、すごい速^{はや}さでカマをのばして、コオロギを食^たべ始^{はじ}めたんだよ。」

花ちゃん 「すごい食^{しょくよく}欲^{よく}ですね。」

モンタ博士「ところで、このカマキリはオスカメスカ、どちらかわかるかな。」

花ちゃん 「この写真^{しゃしん}だけで、オスカメスカがわかるのですか。」

オー君 「これはメスだね。おなかが太^{ふと}ってるね。」

モンタ博士「そのとおりだね。さすがオー君、よく知^しっているね。この大^{おお}きなおなかには、卵^{たまご}がはい^{はい}っていると思^{おも}うんだ。だから、たくさん^{えいよう ひつよう}の栄養が必要なんだよ！」

花ちゃん 「よく見ると、頭^{あたま}からかじってるわ。」

オー君 「もしかしたら、カマキリは捕^{つか}まえた昆^{こん}虫^{ちゅう}を食^たべるときは頭から食^たべるのかもしれないね？秋^{あき}になったら、いろい^しろと調^{しら}べてみようね！花ちゃん。」



モンタ博士「おもしろいことに気^きがついたね！カマキリがどうやってえさ^たを食^たべるか、観^{かん}察^{さつ}を続^{つづ}ければ、いろい^{たの}ろなことがわかって楽しそうだね。」

オー君 「あのね、花ちゃん。カマキリは共食^{ともぐ}いすることもあるけど、時^{とき}には、メスがオスを食^たべてしまうこともあるんだよ。」

花ちゃん 「へえー！それはびっくり^{きょうてん}仰天ですね。」

モンタ博士「だけど、必^{かなら}ず食^たべるというわけじゃないんだ、秋^{あき}になりえさ^{すく}が少^{すく}なくなると、卵^{たまご}を産^うむためにオスも食^たべてしまうらしいんだ！」

オー君 「卵^{たまご}を産^うむために必^{ひっし}死^しなんですね。」

モンタ博士「そうだね。自然^{しぜん}の世界^{せかい}というのは厳^{きび}しいものなんだね。」

カマキリ^{カマキリ}の天敵

カマキリの卵は丈夫な卵のうで守られているので、絶対に安全かというところでもないようです。昆虫界のギャングとか、王様とか言われているカマキリにも天敵はいるのです。その代表がカマキリタマゴカツオブシムシやオナガアシブトコバチで、卵のうに寄生して卵を食べてしまいます。

カマキリタマゴカツオブシムシの成虫は、卵のうの穴にあなを空けて中に入り、カマキリの卵に自分の卵を産み付けます。その卵からかえったカマキリタマゴカツオブシムシの幼虫は、カマキリの卵を食べて成長するのです。また、オナガアシブトコバチは、卵のうの上からおしりにある長い産卵管を差し込み（これらの仲間を寄生蜂といい、とても興味深い生活環で面白い世界です。そのうち国立てくてくお知らせします。）、中のカマキリの卵に自分の卵を産み付けます。やがて、卵からかえったオナガアシブトコバチの幼虫は、同じようにカマキリの卵を食べて大きくなります。

成虫にも天敵はいます。コウモリや鳥などに襲われたりします。また、ハリガネムシというちょっと変わった動物にもよくやられます。ハリガネムシというのは、昆虫ではなく、回虫などの仲間^{仲間}で線形動物^{線形動物}と言います。これがまた、針金そっくりで、変な形で面白い生活環をしている生き物です。